

降雨を起因とした大規模土砂災害(河道閉塞)に対し、岐阜県、揖斐川町、本巣市及び国土交通省等の各防災担当者の災害対応能力を向上及び各関係機関の連携強化をするため、合同防災訓練を実施しました。

今年度は、昭和40年9月の奥越豪雨による徳山白谷と根尾白谷の大崩壊発生から60年の節目の年であることから、降雨を起因とした大規模土砂災害による、揖斐川の河道閉塞を想定した災害対応に関して、ワークショップ形式による、各防災担当者の意見交換を実施しました。

◎訓練の様子



ワークショップ形式によるグループ意見交換

◆実施日時: 令和7年10月27日(月)13:30~16:30

◆訓練方式: ワークショップ形式

◆参加機関・参加者数: 合計14機関 参加者 約60名

国土交通省 中部地方整備局河川部、越美山系砂防事務所、木曽川上流河川事務所、
木曽川水系ダム統管理事務所

岐阜県 県土整備部、揖斐土木事務所、揖斐県事務所、岐阜土木事務所

揖斐川町、本巣市

(聴講)岐阜県危機管理部、大垣市、山県市、養老町

◎各機関からの主な意見

- ・警報発令後に避難所開設の準備等しながら、災害箇所をいつ、だれが、どの段階で発見するか、実際は難しいのではないかという話の中で、国の方からヘリやドローンによる調査が可能という話があり、有意義な訓練であったと感じた。【町】
- ・緊急調査結果によっては上流下流含めた避難計画の見直しを検討する必要があり、またそういった情報をいかに住民の方に速く正確に適用していくかが重要だと感じた。【町】
- ・リエゾンやTEC-FORCEというものが本当に今近くにいる国の機関の方が直接来ていただけということがよく分かった。【県】
- ・今回の訓練では、緊急調査等は国が主体であったが、県として必要な調整等、こちらでできることも考えていきたい。【県】
- ・地域住民の避難時の判断材料に緊急調査の結果も入っているということを知ったので、早期に結果を提供できるようにしたいと思った。【国】
- ・大規模な災害であるため、国が主体となって調査を実施することになるかと思いますが、その際には本局やほかの砂防事務所も連携し、分散して対応し、対策を立てていく必要があると感じた。【国】

◎講評 揖斐川町長

平成18年の東横山の地すべりに対応した経験から、こういった大規模な災害対応の難しさを実感しているので、こうして市町、県、国の皆様一堂に会して情報交換や訓練をしたことを心強く思っており、今後も三者が連携しながら災害対応に備えていければと思います。

◎講評 岩田総合土砂管理官

皆さんが発言しようと常に積極的に考えており、非常に有意義な訓練であったと思いました。今後もワークショップ形式の訓練を定期的に繰り返し重ねて改善し、有事の際に備えていただければと思います。



【開会挨拶・講評】揖斐川町 岡部町長



【講評】岩田総合土砂管理官